

NDB データの利用の提言に関する検討  
—関係資料の収集・整理—

|       |        |                          |
|-------|--------|--------------------------|
| 研究代表者 | 川戸 美由紀 | 国立保健医療科学院疫学・統計研究部上席主任研究官 |
| 研究分担者 | 村上 義孝  | 東邦大学医学部社会医学講座医療統計学分野教授   |
|       | 三重野牧子  | 自治医科大学情報センター医学情報学准教授     |
| 研究協力者 | 上原 里程  | 国立保健医療科学院疫学・統計研究部部長      |
|       | 鈴木 寿則  | 仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科教授    |
|       | 野田 龍也  | 奈良県立医科大学公衆衛生学講座准教授       |
|       | 筒井 杏奈  | 東邦大学医学部社会医学講座医療統計学分野助教   |
|       | 橋本 修二  | 藤田医科大学客員教授               |

**研究要旨** 分担研究課題の「NDBデータの集計と利用の提言に関する検討」の研究の一環として、2年計画によって、傷病統計におけるNDBデータの利用について、具体的な提言（患者調査に係る提言を含む）をまとめることを目的とした。提言に向けた議論の準備として、研究班会議などで意見交換を行うとともに、傷病量の情報を有する主な公的統計調査の関係資料を収集・整理した。NDBデータの利用の提言にあたって、NDBデータによる傷病量について、傷病統計としての利用可能性、医療行政政策への活用に有効な情報内容などを検討すると同時に、患者調査について、傷病統計での位置づけと傷病量情報の重要性を考慮して、記入者負担の軽減策などを議論することが重要であろう。

#### A. 研究目的

分担研究課題の「NDBデータの集計と利用の提言に関する検討」の研究の一環として、他の検討課題によるNDBデータの傷病量としての利用可能性と有用性およびNDBデータの集計方法に関する結果に基づいて、2年計画によって、傷病統計におけるNDBデータの利用について、具体的な提言（患者調査に係る提言を含む）をまとめることを目的とした。

令和6年度は、次年度の提言に向けた議論の準備として、研究班会議などで意見交換を行うとともに、いくつかの関係資料を収集・整理した。ここでは、傷病量の情報を有する主な公的統計調査についての関係資料の収集・整理の結果を示す。

#### B. 研究方法

提言に向けた議論の準備として、第1回研究班会議（令和6年5月）と第2回研究班会議（令和7年1月）などで意見交換を行った。傷病量の情報を有する主な公的統計調査についての関係資料を収集・整理した。「厚生労働統計一覧」（厚生労働省）と「政府統計の総合窓口 e-Stat」の統計調査に関する掲載事項などを参照した。

（倫理面への配慮）

本研究では、既存の統計資料と集計結果表を用い、いずれも個人情報を含まないため、個人情報保護に関する問題は生じない。

#### C. 研究結果

表1に、傷病量の情報を有する主な公的統計調査の概要を示す。「厚生労働統計一覧」

(厚生労働省)と「政府統計の総合窓口 e-Stat」からの閲覧可能分を対象とし、公的統計調査として、14 統計を取り上げた。各統計について、傷病量の特徴で分類した上で、調査開始年、調査周期、傷病情報、傷病情報の調査対象者を示した。

傷病全体を対象とする統計〔傷病情報〕は患者調査〔医師の診断による傷病〕と国民生活基礎調査(健康票)〔被調査者の回答による 41 傷病〕であった。一部の傷病を対象とする統計は国民健康・栄養調査〔高血圧、糖尿病などの傷病〕、歯科疾患実態調査〔う蝕、歯周疾患などの歯科疾患〕、感染症発生动向調査〔感染症〕、全国がん登録〔悪性新生物〕であった。レセプトを基礎とする統計は社会医療診療行為別統計(同、調査)〔レセプトの傷病〕、医科医療費(電算処理分)の動向調査〔医科レセプトの傷病〕、歯科医療費(電算処理分)の動向調査〔歯科レセプトの傷病〕であった。特定の対象者の統計は人口動態調査〔原死因〕、国民生活基礎調査(介護票)〔被調査者の回答による介護の原因疾患〕、介護サービス施設・事業所調査(利用者票)〔施設・事業所の回答による傷病〕であった。傷病の分類なしの統計は医療施設調査(静態調査)〔入院・外来の有無(傷病分類なし)〕、病院報告〔入院・外来の有無(傷病分類なし)〕であった。

#### D. 考察

傷病統計における NDB データの利用の提言にあたって、公的統計での傷病統計の状況を考慮することが重要と考えられる。ここでは、「厚生労働統計一覧」(厚生労働省)と「政府統計の総合窓口 e-Stat」の統計調査に関する掲載事項を検討対象とした。

傷病情報を有する公的統計として、14 統計が挙げられた。それぞれの統計の概要をみると、傷病量の特徴、傷病情報、傷病情報の調査対象者などに、様々な相違がみられた。これには、傷病量に大きな多様性があること、医療行政政策などに多岐に渡る傷病量の

情報が要請されること、そして、その把握のために様々な対象と方法を駆使する必要があることが関係すると考えられる。必要な傷病量の情報はさらに拡大していくものと思われる。このような状況からみて、今後とも、傷病統計としては、多くの公的統計によって構成されるものと思われる。

傷病統計の現状をみると、傷病全体を対象とすること、傷病情報が医師の診断による傷病に基づくことから、患者調査が中心的な位置づけを有するとみられる。レセプトを基礎とする統計では、診療行為や医療費の分析結果が中心的であり、傷病情報の利用とその結果の提供は必ずしも十分でないと思われる。NDB データによる傷病量については、基礎とするレセプト情報に課題と制約があるものの、有用な情報が提供される可能性があり、患者調査による傷病量の情報を補完することが期待される。それに伴って、患者調査において、収集する情報内容の一部を減らすことが検討可能となり、記入者負担の軽減などにつながる可能性がある。

以上、NDB データの利用の提言にあたって、NDB データによる傷病量について、正確性と有用性を考慮しつつ、傷病統計としての利用可能性、医療行政政策への活用に有効な情報内容などを検討することになる。同時に、患者調査について、傷病統計での位置づけと傷病量情報の重要性を考慮して、記入者負担の軽減策などを議論することが重要であろう。

#### E. 結論

傷病統計における NDB データの利用の提言に向けた議論の準備として、研究会議などで意見交換を行うとともに、傷病量の情報を有する主な公的統計調査の関係資料を収集・整理した。NDB データの利用の提言にあたって、NDB データによる傷病量について、傷病統計としての利用可能性、医療行政政策への活用に有効な情報内容などを検討すると同時に、患者調査について、傷病統計で

の位置づけと傷病量情報の重要性を考慮して、記入者負担の軽減策などを議論することが重要であろう。

#### F. 研究発表

1. 論文発表  
なし。
2. 学会発表  
なし。

#### G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし

表 1. 傷病量の情報を有する主な公的統計調査の概要

| 傷病量の特徴   | 統計調査名                | 調査開始年 <sup>#</sup> | 調査周期 <sup>#</sup> | 傷病情報              | 傷病情報の調査対象者              |
|----------|----------------------|--------------------|-------------------|-------------------|-------------------------|
| 傷病全体を対象  | 患者調査                 | 1996年              | 3年に1回             | 医師の診断による傷病        | 医療施設を1日に利用した患者、1か月の退院患者 |
|          | 国民生活基礎調査（健康票）        | 1995年              | 3年に1回             | 被調査者の回答による41傷病    | 1か月の通院者                 |
| 一部の傷病を対象 | 国民健康・栄養調査            | 2003年              | 毎年                | 高血圧、糖尿病などの傷病      | 世帯員                     |
|          | 歯科疾患実態調査             | 2005年              | 5～6年に1回           | う蝕、歯周疾患などの歯科疾患    | 世帯員                     |
|          | 感染症発生動向調査            | 2011年              | 毎週                | 感染症               | 感染症の罹患患者                |
|          | 全国がん登録               | 2016年              | 毎年                | 悪性新生物             | 悪性新生物の罹患患者              |
| レセプトを基礎  | 社会医療診療行為別統計（同、調査）    | 1996年              | 毎年                | レセプトの傷病           | 1か月の患者                  |
|          | 医科医療費（電算処理分）の動向調査    | 2020年度             | 毎月                | 医科レセプトの傷病         | 患者                      |
|          | 歯科医療費（電算処理分）の動向調査    | 2022年度             | 毎月                | 歯科レセプトの傷病         | 患者                      |
| 特定の対象者   | 人口動態調査               | 1980年              | 毎月                | 原死因               | 死亡者                     |
|          | 国民生活基礎調査（介護票）        | 2001年              | 3年に1回             | 被調査者の回答による介護の原因疾患 | 要支援・要介護者                |
|          | 介護サービス施設・事業所調査（利用者票） | 2000年              | 3年に1回             | 施設・事業所の回答による傷病    | 介護サービス利用者               |
| 傷病の分類なし  | 医療施設調査（静態調査）         | 1996年              | 3年に1回             | 入院・外来の有無（傷病分類なし）  | 医療施設の患者                 |
|          | 病院報告                 | 1996年              | 毎月                | 入院・外来の有無（傷病分類なし）  | 病院の患者                   |

<sup>#</sup>: 「厚生労働統計一覧」（厚生労働省）と「政府統計の総合窓口e-Stat」からの閲覧可能分を対象とする。